

第 46 回津市子ども・子育て会議 資料等

提出者： 委員 大川 将寿

1. 関連議題： 第 45 回会議永瀬委員よりの質疑等について

1) まずは質問ですが、今回の久居地区での施設開設に向けた「事務局提案」について、①だれが、②どのように、③どのようなタイムスケジュールで、選定（募集も含め）決まっていたのか？（今回の問題を例として）また、それぞれのステージ（課題認識や解決策設定等、それ以降の）で①誰が、②どのような責任をもって、設定を進めたのか、（順を追ったもの）フローチャートで示して、委員に配布すべき。

また、このフローチャートの中で「子ども子育て会議」の入る余地は、国が定めた、又は意図するこの会議体の意義、目的に合致するように入っているのか、示すべき。（少なくとも、課題の吸い上げ、課題の共有・（会議内での）解決提案の共有、課題解決策同意（委員側）の 3 カ所）

2) 資料 1 に私立や社会福祉法人（いわゆる民間側）の定員しか表に無く、ここに入所児童数（実員数）が必要なので、配布資料で示すべき。また、一番重要な公立保

育園、公立幼稚園の利用定員、在籍実員数も同様に表で示すべき。

3) また、この表は単年度だけでなく、過去5年間、10年間と示すべき。特に「久居地域内」と今回議題にうたった以上、公立保育園の北部、北口、こべき、野村の4カ所、公立幼稚園の戸木、巽が丘、蜜柑山、のむらの4園、私立保育園こども園の12園（のべの幼含む）の利用定員、実員数は必須。

4) その上で、「待機児童」の推移とその数字がどの性質をもったものなのか、しっかりと説明すべき。（例としては、「国へ報告した待機児童は0」でそれ以外の数字は、あえて応募したが、希望の園でなければ2才まで待てる家庭が〇〇、その他理由等◇◇、など）

5) この件は何年にもわたってお伝え、提案しているが、分かりやすい表を使って、又は前述の各園、保育所の表の最後に付け足す形でもよいので、採用している教職員数（免許保持者数）を委員へ示すべき。最終的には、解決策は津市全体で採用されている資格保持者（教諭免許や保育士）数と津市で抱える施設利用者（乳幼児数）のバランスだと思いますので、重要なデータとして、資料として印刷物の提示をお願いします。